

2019年11月28日



## ブドウ種子抽出物がノロウイルス粒子に直接作用し不活化

攝津製油株式会社（本社：大阪／代表取締役社長：大前敏和）は、ブドウ種子抽出物が、食中毒の主要原因ウイルスとして知られているノロウイルスのカプシド（外殻）タンパクに直接作用し、ウイルスの形態を変化させることを確認しました。これまでに報告されているブドウ種子抽出物のウイルス不活化効果が本作用により発現することを示唆する結果となりました。

本成果について、今年11月28日開催の第40回日本食品微生物学会学術総会にて発表いたしました。

本研究では、ブドウ種子抽出物で処理を行ったノロウイルス様中空粒子（VLP）の形態変化を透過型電子顕微鏡により観察した結果、ブドウ種子抽出物処理を行ったVLPは明瞭な輪郭を失い、不規則な形状に変化することが観察されました。さらに、画像解析による粒子径計測の結果、ブドウ種子抽出物処理によりVLPが膨化することがわかりました。この結果により、ブドウ種子抽出物はノロウイルス粒子のカプシドタンパクに直接作用し、ウイルス粒子の形態を変化させ、結果としてウイルスの感染性を消失させることが示唆されました。

弊社はブドウ種子抽出物によるノロウイルス不活化技術に関する特許を取得し、本技術を応用したウイルス対策アルコール製剤を上市しております。

リリースに関するお問合せ先 攝津製油株式会社 営業部

TEL：072-280-0920 大阪府堺市西区築港新町1丁5番地10